

令和元年6月29日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03349

研究課題名(和文)中国道教における聖地と巡礼に関する総合的調査と研究

研究課題名(英文)A Comprehensive Study of Chinese Daoist Holy sites and Pilgrimages

研究代表者

土屋 昌明 (TSUCHIYA, MASAOKI)

専修大学・経済学部・教授

研究者番号：80249268

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、道教で洞天福地とされる聖地に対する信仰と巡礼、そこにある道観との関係を考察し、山岳でおこなわれた道教相互のネットワークおよびその歴史的展開を研究した。複数の洞天に対する基礎的な調査を進め、その調査の整理と文献研究との対照をおこなった。

その成果として、『洞天福地研究』第7・8号(計2冊、192頁)を発行した。第7号では6本の論文、第8号では5本の論文を発表した。その他に、2017年3月にパリでフランス・中国の研究者との国際学術会議「第2回日仏中国宗教研究者会議：中国宗教における聖地と巡礼」を開催し、日本からは17人が参加した。成果の論文はいま編集途中で、パリで出版する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来あまり研究されていない「中国における聖地と巡礼」という研究領域を確立した。宗教空間の問題から出発し、研究領域の枠組みに拘わらない総合性を達成した。文献以外に、景観や自然環境、宗教施設(建築・彫刻・絵画)、宗教実践(巡礼、修道、儀礼)などを考慮した研究となった。それゆえ、研究の学際性を備えたとともに、国際性をも追求した。清華大学の主導により、世界文化遺産への申請準備をしている。また、中国とフランスの研究者を招いた会議を開催した。このような学術的な協働は、中国の聖地の環境保護とともに、日本の道教研究および中国研究の国際化と若手育成に大きく貢献している。

研究成果の概要(英文)：We examined the relationship between mountain worship as holy sites (Dongtian) and local Daoism and surveyed the network of Daoist sites located on mountains and pilgrimages to there. We also studied the historical development of this network. We surveyed grottoe heavens so-called small grottoe heavens and studied their historical development. We compiled data on the present state of their Daoist monasteries and their local geographic features such as the overall landscape and caves linked to belief in the grotto heavens. Some of our findings have already been published in the academic journal Dohnten-fukuchi kenkyu No.7 and 8, composed of eleven academic articles. And we also held the international conference "Holy sites and pilgrimages : Second colloque Franco-Japonais sur les lieux saints taoistes, Paris, March 24-25, 2017". Based on our research, the compilation of a historical narrative for the development of the concept of Daoist holy sites and pilgrimages has become possible.

研究分野：中国宗教思想・文学史

キーワード：中国宗教 山岳信仰 洞窟 神仙 歴史地理 宇宙論 民間宗教 国際学術交流

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中国の道教史研究においては従来、信仰や宗教実践で重要な地である「聖地」と、信仰者や宗教職能者がその地へ赴いて何らかの宗教実践をする「巡礼」の問題は、意外にも看過されてきた。この方面では、キリスト教やイスラム教の聖地と巡礼に関する問題意識を高く持つ欧米の研究が先行し、中国国内の研究者がその驥尾に付していた。また、日本の思想宗教の研究では聖地と巡礼の研究がおこなわれていたが、中国の思想宗教の研究においては、この問題意識は高くなかった。

2. 研究の目的

中国道教の聖地である「洞天福地」について、その概念の発生と発展、道教史との関わり、思想宗教における役割、文化史的な役割および東アジアに対する影響を解明することを目的とする。そのために、洞天福地の景観や自然環境を解明し、地理的歴史的に認識する。また、聖地の宗教空間の道観や廟、道士、その儀礼、地方神の信仰圏、道教と地方神に対する信仰との関係、巡礼ネットワーク、これをめぐる交通網などを解明する。

3. 研究の方法

現地調査。文献にみえる洞天福地の現場に赴き、洞窟・景観や環境を観察するとともに、現在に伝わる金石資料の調査、現在おこなわれている宗教実践などを調査する。

文献および実物資料の研究。現地調査の対象に関する歴史文献や金石資料を読解し、当該の聖地の歴史的な展開を叙述する。道教だけでなく、地方神への信仰や仏教がその聖地に関わりを持つ場合もあり、その関係の文献および実物資料も分析の対象とする。

国際討論会の開催。聖地と巡礼の研究においては、欧米の研究が先行しており、とくにフランスの研究者との討論を重視する。国際討論会を通して、新たな研究方法を模索する。

4. 研究成果

平成 29 年 3 月 24・25 日にフランスの l'Ecole Pratique des Hautes Etudes の Vincent Goossaert ほかの研究者と協力して、フランス・パリで国際研究会議「第 2 回日仏中国宗教研究者会議」(Holy sites and pilgrimages. 中国宗教における聖地と巡礼、The Daoist living tradition and comparative perspectives on East Asian Buddhist, imperial and local practices: Second colloque Franco-Japonais sur les lieux saints taoistes, Paris, March, 24-25, 2017) を開催した。各メンバーがこの会議に提出する個人論文をそれぞれまとめた。日本側執筆者は、石野一晴、大形徹、酒井規史、志賀市子、田中文雄、土屋昌明、廣瀬直記、三浦國雄、森瑞枝、山下一夫、頼思好である。この研究成果は、フランス側の研究協力者によってフランス語に翻訳され、Bibliothèque de l'Ecole des Hautes Etudes, Sciences religieuses から刊行予定である。こうした日仏合同の国際会議の成果がフランスで刊行される例は、本研究の分野でも多くない。日本の研究成果を海外に紹介するのに貢献するであろう。

平成 31 年 3 月 9 日(土)午前 10 時 30 分～18 時 30 分でシンポジウム「洞天思想の展開とベトナム・日本」を開催し、道教の洞天福地思想の歴史的展開と思想的変容、聖地と巡礼をめぐる問題、東アジアの宗教文化との関わりなどについて、研究成果を報告した。テーマと発表者は以下の通り。「洞天思想の歴史的展望と東アジア」土屋昌明。「洞窟、洞天、道館 4 世紀から 6 世紀の茅山における信仰」廣瀬直記。「宋代の紀行文にみえる洞天福地 茅山を中心に」酒井規史。「身中の洞天福地説とその淵源」横手裕。「洞天思想以前の王屋山に対する山岳信仰」大形徹。「墓室から洞天へ」三浦國雄。「明清時代における羅浮山の隆盛と巡礼」石野一晴。「懷商と王屋山 近現代における第一洞天」山下一夫。「ベトナム北部ドンチェウ地域の抱福巖とその周辺」大西和彦。「洞天思想と日本の山岳信仰」鈴木健郎。「室町時代の救済観と洞天思想『諏訪縁起』をめぐって」森瑞枝。

平成 30 年 10 月 25 日に北京の清華大学が、クリストファー・シッペール氏の愛山基金と協力して「洞天福地と東亜州文化意象(洞天福地と東アジア文化のイメージ)」という、洞天福地を世界文化遺産に申請するための準備会議が開催され、土屋昌明・大形徹・鈴木健郎が赴いて招待講演をおこなった。

現地調査としては、平成 30 年 3 月に江西省南昌の西山(第十二小洞天)に赴き、現地の道観の調査と道観した。その際に、いわゆる西山が当地ではなく、別の地域にある可能性を知り、平成 30 年 9 月に再度調査をした。この時は、その他に廬山(第八小洞天)と麻姑山(第二十八小洞天)の調査もおこなった。

論文ほかは、平成 28 年の成果として土屋昌明が論文を 2 篇、大形徹が論文を 2 篇作成し、研究協力者(三浦國雄、酒井規史)の論文とあわせて『洞天福地研究』第 7 号(全 98 頁)を出版、平成 29・30 年の成果として、土屋昌明が論文を 1 篇と翻訳 1 篇を作成し、研究協力者(石野一晴、酒井規史、三浦國雄)による 3 論文とあわせて『洞天福地研究』第 8 号(全 98 頁)を出版した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 15 件)

1. 山下 一夫、台湾皮影戲「蘇雲」考、中国都市芸能研究、査読無、17号、2019年、38-58
2. 土屋 昌明、唐長安の東明觀について、洞天福地研究、査読無、第8号、2018、48 58
3. 土屋 昌明、李白與司馬承貞の洞天思想、陳偉強主編『道教修煉與科儀的文學體驗』香港浸會大學人文中國學術叢書、鳳凰出版社、査読無、2018、344 357
4. 横手 裕、林希逸《莊子口義》与五山文学：試論其接受史与曲折之構造、陳偉強主編『道教修煉與科儀的文學體驗』香港浸會大學人文中國學術叢書、鳳凰出版社、査読無、2018、401 421
5. 二階堂 善弘、『水滸全傳』與華光大帝信仰、陳偉強主編『道教修煉與科儀的文學體驗』香港浸會大學人文中國學術叢書、鳳凰出版社、査読無、2018、611 625
6. 山下 一夫、王屋山孫思 miao 傳說的形成與發展 兼談魏華存信仰的轉變、陳偉強主編『道教修煉與科儀的文學體驗』香港浸會大學人文中國學術叢書、鳳凰出版社、査読無、2018、284-311
7. 横手 裕、宮内廳書陵部所藏《道藏》の由來、漢籍與漢學、査読無、2018年第1期、1-21
8. 二階堂 善弘、{口那}{口侘}太子與和修吉龍王、地方戲曲和皮影戲 - 日本學者華人戲曲曲藝論文集 -、査読無、2018年、265 - 281
9. 大形 徹、字說「口耳の口」、漢字学研究、査読無、第6号、2018年、93-120
10. 山下 一夫、《銷釋准提復生寶卷》初探、經典、儀式與民間信仰、査読無、2018年、83 94
11. 土屋 昌明、唐から五代における河北の道教、禪文化研究所『『臨濟録』研究の現在』、査読無、2017、361 376
12. 土屋 昌明、唐代洞天巡礼過程初探、洞天福地研究、査読無、第7号、2017年、51 67
13. 土屋 昌明、司馬承禎の洞天思想と坐忘論、洞天福地研究、査読無、第7号、2017年、81 101
14. 土屋 昌明、中国の洞窟觀念と身体の問題 洞天思想をめぐって、身心変容技法研究、査読無、第6号、2017年、207-215
15. 大形 徹、齊雲山真仙洞府十大洞天・三十六所精廬洞天・海中五嶽洞天・七十二福地、洞天福地研究、査読無、第7号、2017年、30 50

〔学会発表〕(計21件)

1. 土屋 昌明、洞天思想の歴史的発展と東アジア、洞天福地研究会シンポジウム、専修大学、2019年
2. 大形 徹、唐以前の王屋山、洞天福地研究会シンポジウム、専修大学、2019年
3. 横手 裕、身体中の洞天福地とその淵源、洞天福地研究会シンポジウム、専修大学、2019年
4. 山下 一夫、懷商と王屋山 近現代における第一洞天、洞天福地研究会シンポジウム、専修大学、2019年
5. 鈴木 健郎、洞天思想と日本の山岳信仰、洞天福地研究会シンポジウム、専修大学、2019年
6. 土屋 昌明、『幽明録』にみえる洞窟のはなし、京都大学人文科学研究所 TOKYO 漢籍 SEMINAR (招待講演)、2019年
7. 大形 徹、飛行する仙人、京都大学人文科学研究所 TOKYO 漢籍 SEMINAR (招待講演)、2019年
8. 二階堂 善弘、『封神演義』の宗教文化に対する影響、道教友好協会 2019 春節特別講演会(招待講演)、2019年
9. 土屋 昌明、日本における道教研究の有効性について、日本宗教学会大会(招待講演)、大谷

大学、2018年

10. 土屋 昌明、如何研究道教与日本文化關係問題、人民大学宗教学術講座(招待講演)、北京、人民大学、2018年

11. 大形 徹、關於“有朋自遠方來”原為“友朋自遠方來”之可能性、人民大学宗教学術講座(招待講演)、北京、人民大学、2018年

12. 土屋 昌明、朝鮮半島の洞天福地文化、清華大学洞天福地与東亞文化意象(招待講演)(國際学会)、北京、清華大学、2018年

13. 大形 徹、王屋山与天壇、清華大学洞天福地与東亞文化意象(招待講演)(國際学会)、北京、清華大学、2018年

14. 鈴木 健郎、洞天思想与日本修驗道、清華大学洞天福地与東亞文化意象(招待講演)(國際学会)、北京、清華大学、2018年

15. 横手 裕、《正統道藏》日本宮内廳藏本解謎、從《道藏》到《道藏輯要》:版本、流變與傳承(招待講演)(國際学会)、2018年

16. 二階堂 善弘、日本に來ている道教・民間信仰の神々、阪神奈大学・研究機關生涯學習ネット「公開講座フェスタ2018」(招待講演)、2018年

17. 二階堂 善弘、關公与足利尊氏 日本最古關公神像伝説、關公文化國際學術前沿論壇(招待講演)、2018年

18. 山下 一夫、台灣皮影戲「蘇雲」考、中華圈の影絵人形劇國際講演会(國際学会)、2018年

19. 山下 一夫、台灣の影絵人形劇と弋陽腔、西洋比較演劇研究会2018年度5月例会、2018年

20. 山下 一夫、台灣皮影戲《白鷺歌》和弋陽腔、偶戲無國界-台日港偶戲交流座談會(招待講演)(國際学会)、2018年

21. 山下 一夫、当代中国關公廟之佛教化、2018 關公文化國際學術前沿論壇(招待講演)(國際学会)、2018年

〔圖書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等
洞天福地研究

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：横手 裕

ローマ字氏名：(YOKOTE, yutaka)

所属研究機関名：東京大学

部局名：大学院人文社会系研究科

職名：教授

研究者番号 (8桁)：10240201

研究分担者氏名：山下 一夫

ローマ字氏名：(YAMASHITA, kazu)

所属研究機関名：慶應義塾大学

部局名：理工学部

職名：准教授

研究者番号 (8桁)：20383383

研究分担者氏名：鈴木 健郎

ローマ字氏名：(SUZUKI, takeo)

所属研究機関名：専修大学

部局名：商学部

職名：准教授

研究者番号 (8桁)：40439518

研究分担者氏名：大形 徹

ローマ字氏名：(OHGATA, tohru)

所属研究機関名：大阪府立大学

部局名：人間社会システム科学研究科

職名：教授

研究者番号 (8桁)：60152063

研究分担者氏名：二階堂 善弘

ローマ字氏名：(NIKAIDO, yoshihiro)

所属研究機関名：関西大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号 (8桁)：70292258

(2)研究協力者

研究協力者氏名：三浦 國雄

ローマ字氏名：(MIURA, kunio)

研究協力者氏名：酒井 規史

ローマ字氏名：(SAKAI, norifumi)

研究協力者氏名：廣瀬 直記
ローマ字氏名：(HIROSE, naoki)

研究協力者氏名：石野 一晴
ローマ字氏名：(ISHINO, kazuharu)

研究協力者氏名：大西 和彦
ローマ字氏名：(OHNISHI, kazuhiko)

研究協力者氏名：ヴァンサン・ゴースール
ローマ字氏名：(VINCENT, goossaert)

研究協力者氏名：田中 文雄
ローマ字氏名：(TANAKA, fumimasa)

研究協力者氏名：志賀 市子
ローマ字氏名：(SHIGA, ichiko)

研究協力者氏名：森 瑞枝
ローマ字氏名：(MORI, mizue)

研究協力者氏名：賴 思好
ローマ字氏名：(LAI, sih-yu)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。